

令和5年度 各係における教育活動重点目標

本校の主要な係で、本年度取り組みたいものとして挙げられた重点目標です。それぞれの項目について、中間、最終の自己評価を行います。その評価を、学校評議員・評価員へ配布しますので、学校評価シートの評価にお役立てください。

1. 教務係

《今年度の重点目標》

- ①新しい学力を踏まえ、生徒の学力向上を目指す。
- ②校務が円滑に行えるように計画・立案する。
- ③ICT を活用した生徒の出席状況の把握と先行指導
- ④生徒の豊かな人格形成を助ける。
- ⑤入試広報係協力しての生徒募集活動

※評価【〔達成度〕A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	教科シラバスによる計画的授業と定期考査の改善。新課程シラバスの作成と、観点別学習評価に合わせた定期考査の研究。	計画的な授業が展開でき、学習内容の定着が確認できたか。新課程に合わせた研究が進められたか。	B	新課程となり分割された科目については、抱き合わせる形の試験作成を認めることで対応している。今後も研究を進めていく。
①②	ICTの導入を踏まえた授業アンケートを実施し、その結果を利用した授業改善を促す。	授業評価を実施し、タブレットを活用した授業改善の促すことに努められたか。	B	前期授業アンケートを実施し、教科会で検討している。今年度からはタブレット使用度も調査している。
①	実力テストの結果の有効利用と、効果的な学習活動につながるよう研究する。新課程については、小テストや振り返りシート等とともに評価に組み込めるよう研究する。	実力テストの活用について検討できたか。適切な準備・後処理が出来たか。新課程における評価の扱いについて研究を進められたか。	B	実力テストの準備、後処理は適切に行えている。実力テストの結果を観点別評価に組み込むことについては、今後、検証を進めていきたい。
①②	授業時数の確保	年間計画にのっとり授業時間が確保できたか。感染症の拡大等、不測の事態に対応できたか。	A	交通機関の運休により休校措置をとったが、夏期休業を1日減らすことで授業時間を確保した。
①②	試験時間割・監督・事後指導の日程調整	計画的な試験対策勉強が出来る環境を作れたか。また、丁寧な事後指導を行えたか。	A	計画通りに実施できている。試験範囲を早く、統一して連絡することを、今後も継続していけるようにする。
①②③	適切な年間計画の作成	年間の様々な行事を適切に配置し、生徒の豊かな人格形成の手助けとなったか。	A	コロナウィルスの扱い、感染状況に落ち着きが見られたため、今年度は概ね計画に沿って進められている。
①②	学校自己評価	学校自己評価をとりまとめ、外部に公表できたか。		年度末に評価

②	校内・校外研修、相互授業見学等、新しい研修制度の実施	新たな研修制度を実施・運用し、タブレットを含む教員の知識・技術の向上、また生徒への反映に寄与できたか。	B	昨年度大きく変更した研修制度について検証を行う。また、タブレットを活用した授業改革につながる研修の実施と検討を行っている。
③④	生徒の出席状況の把握と先行指導	毎日の出席状況や、個人カルテを活用した1/6、1/5オーバーをした生徒の把握をし、適切な対応を行えたか。	A	紙による個人カルテから、データ入力の変更にすることで、教科担当と担任間の情報共有をより徹底することができた。成績会議等を通して全体でも情報を共有している。
②④	Classiの有効活用	保護者との円滑な連絡や、生徒の活動計画、記録として活用、運用ができたか。	B	昨年度より担任(顧問)と保護者間の連絡用に使用。他の連絡手段と棲み分けて有効活用されている。その他の機能の活用については検討が必要。
②	各種奨学金を生徒に紹介し、奨学金の受給を広げる	一覧表の配布や説明会を実施し、奨学金を生徒に紹介できたか。	A	学生支援機構の説明など円滑に遂行した。
②	働き方改革への取り組み	未来を展望し、新たに取り組むべきことを導入する余地を生み出すという前提に立って、業務の見直しを図れたか。		年度末に評価
⑤	入試広報係と協力して入試業務を行う。	入試説明会や学校見学会等を円滑に行えたか。	A	計画通りに実施している。

2. 進路指導係

重点目標	今年度の目標
①	講演会やキャリアガイダンス等を通して進路に対して目的意識を育むとともに、主体的な進路実現を支援する。
②	多岐にわたる進路における情報を適宜提供することにより、早い段階での進路意識の向上を図り、担任団の進路指導の援助を行うとともに、生徒の面接指導やプレゼンテーション指導等を支援する。
③	基礎学力の向上に意欲を持てるよう、各種補習や模擬試験への取り組みを充実させ、進路実現に向けた学力の向上を図り、希望進路の実現を支援する。

※評価【〔達成度〕 A：十分 B：おおむねよい C：不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	三年間を見据えたキャリア教育を計画し、主体的な進路選択に向けた支援を行う。	各学年の段階に応じたガイダンスや講演会を、計画的に実施できたか。	A	3年間の計画に基づいた進路行事を実施している。3学年志望理由書・面接対策講座。2・3学年希望者(2年117・3年16名)ビッグハット進路ガイダンス。1学年大学出前授業・大学キャンパス見学の実施、等。
①	就職希望者を主とし職業体験の場を提供し、生徒の職業理解を深めさせる。	事業所見学の希望者に対し、事前に趣旨や意義を指導できたか。	A	1・2年生を対象にジュニアインターンシップや福祉の職場体験を実施した。3年生の看護体験は一部の病院で実施した。
②	生徒の進路意識状況を定期的に把握し、適切な進路情報を提供しアドバイスする。	生徒の進路意識に見合った進路情報を提供し、進路相談を行なえたか。	A	進路希望アンケートを定期的実施している。5月実施：大学短大70.5：専門24.9：就職3.7：その他0.9 現在9月調査実施中
③	生徒の学習の場を確保し、希望進路実現に向けた学力の向上を図る。	各種補習の実施、キャリアセンターやスタディホールの有効活用ができたか。	A	夏期講習、土曜進学講習会を予定通り実施している。スタディホールは自主学習の場として積極的に利用されている。また、キャリアセンターも進路の相談や学習の質問で頻繁にせいとが訪れている。
② ③	生徒の成績の把握・分析を行い、状況に見合う進路指導を行う。	Highschool Onlineを活用し生徒の指導を行えたか。	A	模試ごとに進路検討会を行い、過去のデータや他校のデータと比較し把握分析に務めている。
③	研修会への参加及び校内での情報共有を行ない、職員間での共通理解を持つ。	教員の使用環境を整え、入試に問題なく活用する状況をつくることのできたか。	A	オンラインでの研究協議会や大学入試説明会など、積極的に参加している。Teamsを利用し研修会の情報をPDFで共有している。

3. 生徒指導係

今年度の重点目標
① 制服を正しく美しく着させる
② SNS とのかかわり方についての指導を充実させる
③ 自転車の安全運転を徹底させる
④ 電車内のマナー向上と安全な登下校
⑤ いじめの予防、早期発見、早期対応

※評価〔達成度〕 A：十分 B：おおむね良い C：不十分

目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
① 制服を正しく美しく着させる	シャツの第一ボタンまで締めさせる指導 女子生徒のスカート丈	シャツの第一ボタンを締めさせる指導を徹底できたか 正常なスカート丈で履けているか	B	学年問わず若干名の女子生徒のスカート丈違反があり、その都度指導しているが、大きく違反しているのではなく規定ギリギリを攻めている印象がある。注意しないとさらに短くしてることが予想できるため細かな指導が必要と感じる。全体的には制服を正しく着用することが当たり前との風紀になってきており、落ち着いていると評価できる。
② SNS とのかかわり方についての指導を充実させる	校内スマートフォン使用ルールの徹底 生徒指導だよりや講話、校内電子掲示板を利用した啓蒙活動	他係と連携。利用ルールが守られていたか SNS 関連の問題行動やトラブルが減ったか	B	校内スマートフォン使用ルールは定着している。1 学年で年度当初 SNS に関する講演会を実施。しかし SNS 絡みの問題行動が複数件発生し、多くは早期対処したため大事には至らず解決しが、被害生徒・保護者への対応が困難となる事例もあった。今後も生徒指導便りや、担任から SNS トラブル事例を紹介してもらうなど、さらに力を入れて啓蒙活動や指導に取り組んでいきたい。
③ 自転車の安全運転徹底	生徒指導だよりや講話を利用した啓蒙活動 通学路自転車指導 法改正に伴うヘルメット着用の奨励	運転マナーが向上したか 事故の件数	B	例年通り、年度当初の立ち番により危険個所の指導を実施。生徒の登下校の様子や事故件数等を見ても、安全運転が出来ていると評価できる。ヘルメット着用については、生徒指導便りや集会の場面において、都度奨励に努めているが、着用率は自転車利用者全体の約 1 割程度である。
④ 電車内のマナー向上と安全な登下校	生徒指導だよりによる啓蒙活動 列車乗車指導・駅見回り 通学路指導	乗車マナーが向上したか 登下校時の歩きスマホの状況	A	乗車に関するクレーム・トラブルはない。コロナの状況を見ながら 2 学期に乗車指導を実施する予定。
⑤ いじめの予防、早期発見、早期対応	生徒指導だよりや講話による啓蒙活動 いじめアンケートの活用、他分掌との連携	いじめを未然に防げたか 適切な対応ができたか	A	クラス内での細かな人間関係のトラブルはあるが、小さなうちに担任・副任・学年主任や生徒指導が関わりながら解決に向けて指導が出来ている。第一回いじめアンケートも実施し、問題の早期発見早期対策につなげたい。

4. 生徒会係

今年度の重点目標	
①	生徒会総合本部役員のリーダーシップの下、伝統を大切にしながらもウィズコロナという新しい社会状況を受けて、コロナ以前の西高文化の復興しつつ、これからの社会を見据えた新しい文化の創造をしていくことを目指す。
②	役員会・クラブ・クラス・委員会など様々な生徒集団の中で、課題の発見から課題解決に至る道筋を見通し実行する力を育成することを通じて自立と自治の力をつけさせ、民主的な人格形成を目指す。特に本年度は、探究学習との関連性をさらに強め、学習と生徒会活動の融合を図りたい。
③	他校、地域、保護者などに対して開かれた活動を生み出し、社会性を身につけさせる。

※評価【(達成度) A:十分 B:おおむねよい C:不十分】

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	本部役員の企画力・行動力を育み、リーダー集団として成長させる。	予餞会・西高祭など各種行事を主催・運営することにより、自らの組織力や行動力を高められたか。	A	ウィズコロナという社会の課題にあわせて、適切な企画、運営ができた。
①	太鼓の伝統を引き継ぐ。	太鼓の伝統的な指導を受け継ぎ、太鼓を通して団結力や精神面を鍛えられたか。	A	伝統を引き継ぎ発展させている。本年度はライオンズクラブのフェスティバルに招待されて披露した。
②	上田西高校の学習文化の創設を図る。	第5回、6回の上田西高校学びプロジェクトと昨年より始まった探究学習との融合を図り、西高生の学びの文化を創り出し発展させることができたか。	B	探究やキャリアを意識した講座を開設で来ている。しかし、一方で参加人数が増えてこない。生徒目線の講座の検討を進める必要がある。
②	話し合いを通して、協力体制をつくる力を身につけさせる。	各委員会の活動・生徒総会や各行事の企画・立案などを通して、課題解決のための討議・実践・総括のプロセスを身につけられたか。	B	定例の委員会は例年通り適切に実施運営ができた。しかし、各委員会の活動に即した新しい課題の確認とその課題に対する解決策の提案といった活動に発展できていない。
①	<u>新しい西高文化の創造をはかる。</u>	<u>ウィズコロナの状況に合わせて、コロナ以前の西高文化の復興とこれからの時代を見据えた新しい文化祭の形を模索し実現することができたか。</u>	A	一般公開の実施などコロナ以前の文化祭を取り戻している。また、コロナ禍だけではなく、熱中症といった今年度特有の課題にも取り組むことができた。
②	集団指導体制を通して豊かな資質を育む。	各行事を通して、学年・クラスを越えた生徒・教員の交流を図り、豊かな人間性を身につけられたか。	B	昨年同様10月クラスマッチにおいて学年の枠を超えたチーム作りを検討中。今後は文化祭においても学年を超えたつながりを作り出したい。
③	他校や地域との交流を深める。	他校との交流や地域的な活動を通して、他から学ぶ力や社会性を豊かにすることができたか。	A	本年度は文化学園長野高校生徒会と交流し、文化祭においてコラボ企画「がうプロジェクト」を立ち上げた。また、上田市内の他校との交流も図っていきたい。

5. 環境衛生係【環境分野】

〔1〕今年度の重点目標

- ① 管理箇所の点検や防災の推進を図る。
- ② 年間を通して校舎内外の整美と美化に務める。
- ③ 全校生徒、職員による清掃活動を徹底する。
- ④ 学習環境や地球環境の保護意識を高める

〔2〕評価表（A：十分 B：おおむねよい C：不十分）

重点目標	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
①	分担力所の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・破損個所の発見および修繕 ・管理力所の安全確保 	A	週番担当者が、週一回、校内の見回りを実施するとともに、第一回および第二回学校見学会まえに、校内整美状況を点検した。破損個所への対応は担当者が修理願いにて申請し、状況に合わせて事務の方で行っている。
①	防災意識の啓発と備え	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災に対する意識の啓発および防災訓練の実施 	A	避難経路図を刷新し、各教室へ掲示した。 防災訓練を実施（9/6 水）した。サッカー場への避難を行い、消防士からの訓話を受け、防災意識を高めることができた。
②③	校内清掃活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の清掃活動の徹底 ・清掃用具の保守および点検 ・整美委員会からの呼びかけ 	A	整美委員会を通して、清掃活動への呼びかけを行った。また、第一回学校見学会前に清掃強化週間を実施し、整美委員にて清掃状況の点検を行うことができた。 通学路清掃では、校風委員と連携して、整美委員が拾い集めたゴミの分別など、積極的に関わることができている。
③④	ゴミ分別の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を念頭においた分別活動 ・職員の分別作業への参画（週番） 	B	整美委員三役にて、清掃時間に分別状況の確認を継続している。また、整美委員を通じて、分別徹底の投げかけも行った。分別状況はひどくはないが、徹底に向けて、委員からの注意喚起などを継続したい。